

令和7年度 帯広市職場体験実習実施報告

帯広市 市民福祉部 福祉支援室 障害福祉課

1. 職場体験実習の内容

(1) 目的

障害のある方を市の各部署に職場体験実習者（以下「実習者」という。）として受け入れ、実習を通して職業能力の向上及び社会人としてのマナーや教養の習得を支援することにより、一般就労への関心を高めるとともに、市職員の障害のある方への理解促進を図ることを目的とする。

(2) 実習対象者

帯広市内の就労系障害福祉サービス事業所の利用者などで、将来、企業等での就労を目指す意欲を有している者。

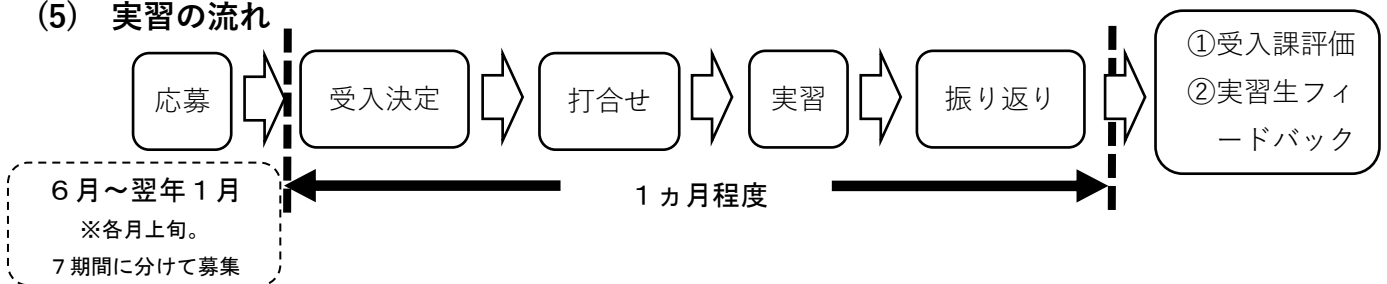
(3) 受入期間

令和7年7月から令和8年2月までの期間で、実習者1人あたりの実習期間を概ね2日間から1週間以内とし、午前8時45分から午後5時30分（正午から午後1時までは休憩時間）の間の時間帯とした。

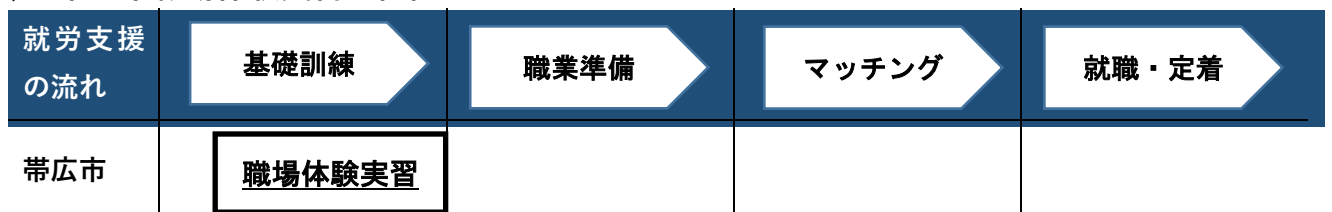
(4) 受入課及び実施人数

受入課	実習件数	実習参加人数
13課	16件	22名

(5) 実習の流れ



(6) 帯広市職場体験実習の位置づけ



- 帯広市役所の仕事を通じて、“今まで経験していない仕事にふれる”、“事業所で培ったチカラを試す”、“本人の自信につなげる”、“努力すべき課題を見つける”…など、次のステップに進むための足掛かりとなるもの。

2. 今年度の事業の総括と実習参加者からの声

実習1か月後の事業所での変化について支援員が行うフィードバック評価では、得意分野や興味の方向性の発見や、コミュニケーションの増加、作業の耐久性や持続性の向上が多く見られた。

市役所で実習を受け入れた課においても、障害者に対する考え方、感じ方、向き合い方に変化が芽生えたほか、障害のある方と共に働くために互いにどんなことが必要か、共に働くための環境づくりについて考えるきっかけとなるなど、良い影響を与えてもらった。

実習生、事業所支援員、市役所職員の双方にとって、大変充実した実習生活を送ることができ、貴重な経験を積むことができた。

実習生及び支援員からいただいた声を、下記のとおり一部抜粋して紹介する。

●実習生の感想（一部）

- ・「自分を変えていきたい」と思うことができた。
- ・一般就労へのイメージを持つことができた。
- ・長い時間働くことについて考えるきっかけになった。
- ・一般就労に向けて、コミュニケーションをとる力や長い時間働く、力仕事をするための体力をつけたいと思う。

●事業所（支援員）の感想（一部）

- ・自分がどのような仕事に就きたいかを再確認し、自ら求職活動をおこなうきっかけになった。
- ・実習前は早く一般就労したいと希望されていたが、実習中は思うように自分の力を発揮できなかったと振り返り、実習後はすぐに一般就労ではなく、緊張せずに自分の力を発揮できるよう、コミュニケーションを図りながら事業所で取り組んでいきたいと目標を立てた。
- ・当事業所の作業活動内でも報連相は得意だと感じていたが、実習中に初対面かつ指導役ではない職員さんに質問や確認を自発的にできたことは新たな気づきだった。
- ・課題として、質問や指示に対して、テンポよく答えられるようにという事を上げていたが、実習中には応答に違和感のないコミュニケーションが取れていた。
- ・事業所として課題点として捉えていたことが客観的な評価を得ることができて、本人の状況を示す一種のバロメーターになり得るという気づきを得た。

実習に興味のある支援員の方・事業所を利用している方へ

本事業は、実習生にとって就労にむけた最初の一步となるものです。

就労に意欲があって事業所で頑張ってきたことを試したい方、就労への意欲がなんだかなくなってきたと感じる方、今の事業所の仕事だけでなく新しい仕事を試してみたい方はぜひ本事業の活用をご検討ください。

また、就労に向けた次のステップを把握したい方がいる、事業所の外からの評価を知りたい方がいるなど、支援員の皆様におかれましても、利用者の方の就労に向けた見立てや動機づけの一助として、本事業の活用をご案内いただけますと幸いです。